

懐かしく新しい「すそみ」の秋まつり 今年のトピック

綿を再び山麓に！

かつて筑波山麓地域では、自家用に使用する綿は自分で栽培し、はんでんやちゃんちゃんこに入れたり、糸に紡いで紺屋さんで染めてもらい、お母さんやおばあちゃんが機械をして、もんぺや着物を仕立てたそうです。そんなお話から「自分たちでも『メイドイン筑波山麓』の綿織物がつくれるといいね！」と、有志が集まり『わた部』を発足させました。筑波山を間近に臨む山麓の遊休農地をお借りして、地元の農家の方に畝つくりから草取り等々ご指導いただき、綿の栽培を始めることができました。

飯田さんからお話を伺いました



そもそも山麓で綿はどのように栽培され、利用されていたのか。神郡にお住まいの飯田かつさんに、綿にまつわるお話を伺いました。

年生だったそうです。「子供のときは家の手伝いで、綿の季節になると落ちて汚れがつく前に『摘んでこう』と言われてたら摘みに行ったんだ。綿を買うのは大変だから、毎年自家用に畑1枚くらいは綿を作ってたな。採ってきた綿は、ワタキリ（綿繰り）をして、種を分けたら綿屋さんにもつてく。当時北条には綿屋が2件あって、そこでふとん綿にしたり、糸にしてもらってたな。糸は小田にあった紺屋に持ってたって、染めてもらったんだ」

当時は各家に織機があり、ご実家でも餅などを織っていたそうです。「栗原には機屋があって、平織やちりめんなんか、頼めばいろいろ織ってくれたんだよ。ここでは模様染めなんかもやってたよ」

「女に勉強は必要ない」と、高校へは行かず裁縫所へ。「学校へは山仕事をすべて終わらせてから行ったんだ。冬は和裁、夏は洋裁を習い、3年くらいでいいものが縫えるようになってたね。」

昭和33年の嫁入りの時に、のら着やふとんを持っていくために、ご実家では綿畑を1枚増やしたとのこと。のら着の帯は、縦糸を綿糸、横糸をぼろきりで織ったそうです。



草取りの指導をうける「わた部」員

「もう裁縫をやらなくなったけど、こないだ片付けしたら、綿を入れるばかりのはんてんが出てきたよ。今度あれに綿を入れてみるかな」

猛暑の中、一面に広がる雑草の海の前に、呆然と立ち尽くすこともしばしば。

そんな愛すべき我らの綿畑では、黄色やピンクの可愛らしい花が咲き、ふわふわの綿の収穫ができるまでにこぎつけました。10月30日(土)、31日(日)のワークショップ、懐かしくて新しい綿にふれながら、かつての女性達の営みに思いをはせてみませんか？

◆ <http://watabu.exblog.jp/>
（綿が育つ様子が見れます！）
イベント日程は4ページをご覧ください。
松本真朋(里山建築研究所)



ししやぐらを作ろう！ ぼたんプロジェクト

年々イノシシ被害が増え続けているという筑波山麓。地元住民の被害の声を聞きつけた筑波大学ADP（アート・デザイン・プロデュース



イノシシの被害についてお話を伺いました

「ウエルカムつくば」の花文字が危機に

●花守隊をつくって花壇を守る
すそみろく(第16号)でご紹介しましたが、筑波山への登り口、白井の畑の中に「ウエルカムつくば」という花文字の花壇があります。これは、つくば市の花いっぱい運動に参加している鮭川和行さん(白井地区)が中心となって、地域の人たちと6月初めに植えたものです。

ベゴニアの白い文字が周囲の赤いベゴニアの間から浮き立つように美しく咲いて、つくば道を歩く人を楽しませたのは、7月末頃まで。その後8月は雨が降らず、ずっと猛暑が読いたので、畑の土は干ばつでカラカラになり、カンナくずを全体に敷きつめましたが効果はあまりなし。水まきは、3日に一度の割合で、500リットルのタンクで4回、た



水まきも大変。でも花はつくば道を往來する人の気持ちを豊かにしてくれます。

がイノシシ被害に對向するアート作品として、「ししやぐら」を間伐材と竹で建築することにしました。

作品製作にあたり、被害の声を直接聞かなければと、何軒かの農家の方に話をうかがいました。元々臆病なイノシシは、人目を気にし、見晴らしのよい手の入った里山には近寄りません。かつては畑を荒らすことは少なかったそうで、イノシシ被害が増えたのは、生活が大きく変わり、山仕事が減り、山が深い藪になった頃から。山が荒れた結果、筑波山麓全域に現れるようになり、畑を荒らすようになってしまいました。

手間暇かけたおいしい野菜をかわいひ孫に食べてもらうために、「来週こそ収穫の時期」と話していた矢先、イノシシに根こそぎもっていかれてしまったそうです。「イノシシは人の会話がわかるのか?」「ウリボウですら私達からすると憎たらしい!」とまで言っていました。

当初はイノシシ除けの柵を考えていましたが、聞き取りを終えて再検討、間伐や草刈りといった山仕事からどういったアート作品が作れるか頭上げたいものです。

●冬の花文字を考えよう

ところで、筑波山麓の秋祭りが終わると花壇も夏から冬へと衣替えをします。冬は赤と白の二種類の葉ポタンを使って、花文字の花壇を作ります。現在この冬バージョンの花文字を募集中。道路から眺めて、見やすく読みやすいカナ文字で8字、つくばらしいことを考えて教えてください。

(応募先は029-866-11860
鮭川和行さんまで)

上野節子(小沢地区)

国土交通大臣より感謝状

田井地区会は、りんりんロードの清掃作業に関して、国土交通大臣より感謝状を授与されました。



紫峰筑波が目の前にせまり、つくば道には赤白青の花々。絶好の場所に今年も「すそみろくチーム」は竹の間伐材で作った竹屋台で「すそみ茶屋」を開店します。

大人気の「福来みかんクッキー」。最高級の素材と万葉の時代から伝わる橘の実「福来みかん」とのマッチングはすばらしい味を醸し出しています。

竹林整備で出た竹を利用して作る「竹ベンチ」「竹トンボ」「竹ぼっくり」。すそみならではの材料を生かした催しです。穴あけ、ひも結び、かなづち使いなど現代の人達が是非習得してほしい技です。親子で助け



ドラム缶で作った焼きいも器

ドラム缶の特製焼きいも器で焼くやきいも。今年からは春から手塩にかけて育てたさつまいもです。天候に恵まれて甘味抜群。熟練の焼き手がほか

かほかの石焼きいもを焼き上げます。「忙中閑有」すそみ茶屋で湧水コーナーやけんちん汁を頂きながら、すそみの秋を満喫してはいかがでしょう。きつと体の中から元気が湧いて来るでしょう。秋風に身を包まれながら：石井博子(神郡地区)



すそみ茶屋、今年もオープンします

「ししやぐら」プロジェクトは、シン肉をもちり、「ぼたんプロジェクト」と名付けました。かつてのようにイノシシと共存し、アートで人とイノシシを結び付けようとの願いからです。

すそみ茶屋注目!